

財務諸表

1999年度末現在のJICAの貸借対照表は図表4-4、また、1999年度の損益計算書は図表4-5のとおりです。

図表4-4 貸借対照表 (2000年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債および資本の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	72,324	流動負債	33,288
現金・預金	69,634	未払金	14,861
その他の流動資産	2,689	未払費用	242
		その他の流動負債	18,184
固定資産	91,738	固定負債	5,800
開発投融資資産	21,278	退職給与引当金	2,041
貸付金	20,400	資産見返交付金	3,758
出資金	1,000	資産見返寄付金	0
貸倒引当金	△ 122	(負債合計)	39,088
入植地資産	881	資本金	130,028
入植地分譲地	290	政府出資金	130,028
入植地割賦元金	594	剰余金	△ 5,054
貸倒引当金	△ 3	資本剰余金	255
移住投融資資産	7,269	欠損金	△ 5,309
貸付金	7,313	繰越欠損金	△ 4,260
貸倒引当金	△ 43	当期損失金	△ 1,049
有形固定資産	60,654	(資本合計)	124,973
建物	37,085		
土地	17,660		
その他の有形固定資産	5,909		
無形固定資産	36		
投資その他の資産	1,617		
敷金・保証金	1,617		
その他の資産	0		
資産合計	164,062	負債・資本合計	164,062

重要な会計方針等

1. 有価証券の評価基準および評価方法
総平均法によっている。
2. たな卸資産の評価基準および評価方法
畜類 個別法による原価法によっている。
3. 固定資産の減価償却方法
法人税法の基準に準じ、定額法により行っている。なお、減価償却累計額は次のとおりである。
有形固定資産 20,738百万円
4. 外貨建資産の換算方法
(1) 外貨建長期金銭債権である入植地資産入植地割賦元金94百万円の決算時の為替相場による円換算額は、74百万円であり、20百万円の差損を生じている。
(2) 外貨建長期金銭債権である移住投融資資産貸付金3,383百万円の決算時の為替相場による円換算額は、3,104百万円であり、279百万円の差損を生じている。
5. 引当金の計上基準
(1) 貸倒引当金
① 開発投融資資産貸付金の貸倒れによる損失に備えるため、内規に基づき、当該事業年度末開発投融資資産貸付金残高の6/1000を計上している。

図表4-5 損益計算書 (1999年4月1日～2000年3月31日)

(単位:百万円)

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
経常費用	177,966	経常収益	176,596
交付金等事業費	140,650	開発投融資収入	505
入植地事業費	10	入植地事業収入	7
受託事業費	5,337	移住投融資収入	110
直営事業費	0	受託事業収入	5,337
施設運営費	2,489	直営事業収入	0
一般管理費	28,698	施設利用収入	2,050
貸倒引当金繰入	169	政府交付金収入	167,025
事業外費用	597	貸倒引当金戻入	186
		資産見返交付金戻入	644
		事業外収益	729
特別損失	64	特別利益	373
前期損益修正損	19	固定資産売却益	373
固定資産売却損	0		
固定資産除却損	45		
		当期損失金	1,049
合計	178,021	合計	178,021

(注) 当期損失金1,049百万円は、国際協力事業団法(1974年法律第62号)第30条第2項の規定に基づき、繰越欠損金として処理する。

参
考

事業団の組織と予算

②入植地資産入植地割賦元金の貸倒れによる損失に備えるため、内規に基づき、当該事業年度末入植地資産入植地割賦元金残高の6/1000を計上している。

③移住投融資資産貸付金の貸倒れによる損失に備えるため、内規に基づき、当該事業年度末移住投融資資産貸付金残高の6/1000を計上している。

(2) 退職給与引当金

役職員の退職手当の支払いにあてるため、内規に基づき、役職員が自己都合で退職した場合の期末要支給額の範囲内で計上している。

6. その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税の会計処理方法

税込方式によっている。

(2) 延滞債権額

移住投融資資産貸付金のうち、延滞債権額(弁済期限を6カ月以上経過して延滞となっている貸付けの元金残高)は、4,125百万円となっている。

(3) 収益・費用の計上基準

①一般原則

発生主義を適用している。

②割賦販売収益の計上基準

入植地資産については、販売基準を適用している。

国際協力の進展..... 1999年度のJICAの歩みと内外の動き

世界の出来事	日本の出来事	JICAの動き
<p>1999年</p> <p>4月26日 NATO首脳会議開催（ワシントン）。対アフリカODA債権放棄が焦点に</p> <p>4月30日 カンボディア、ASEANに加盟</p> <p>5月10日 第7回ラムサール条約会議開催（コスタ・リカ）</p> <p>6月7日 インドネシア総選挙投票</p> <p>6月16日 アフリカ民族会議議長ターボ・ムベキ氏、南アフリカ大統領に就任</p> <p>6月18日～20日 第25回主要先進国首脳会議開催（ケルン・サミット）</p> <p>8月30日 東チモールでインドネシアからの独立を問う住民直接投票実施</p> <p>9月9日～13日 アジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議開催（ニュー・ジーランド）</p> <p>10月1日 在タイ・ミャンマー大使館占拠事件発生</p> <p>10月12日 世界人口が60億人に（国連認定）</p> <p>パキスタンで軍事クーデター、政権交替</p> <p>10月15日 「環境なき医師団」にノーベル平和賞</p> <p>10月20日 東チモール、インドネシアから正式分離 アブドゥルラフマン・ワヒド氏、インドネシア第4代大統領に就任</p> <p>10月25日～11月5日 温暖化防止のための気候変動枠組み条約第5回締約国会議開催（ボン）</p> <p>12月20日 マカオ返還</p> <p>12月31日 パナマ運河返還</p>	<p>1999年</p> <p>4月24日 「総理府外交世論調査」の結果発表。 ODA縮小派過去最高の22%に</p> <p>4月27日 ユーゴスラヴィア・コソヴォ自治州の難民復興支援を目的とした総額2億ドルの追加支援策を決定</p> <p>5月 対イランODA再開</p> <p>5月3日 日本首脳会議でアジア共同支援を合意</p> <p>5月7日 情報公開法成立</p> <p>5月24日 日米防衛協力のための指針（ガイドライン）関連法成立</p> <p>8月2日 衆院行政監視委員会、ODA法制定を全会一致で決議</p> <p>8月10日 ODA中期政策決定</p> <p>10月1日 海外経済協力基金と日本輸出入銀行の統合により国際協力銀行誕生</p> <p>10月2日～3日 国際協力フェスティバル開催、16万7000人集う</p> <p>11月17日 アジア経済再生ミッション、首相に報告書提出</p>	<p>1999年</p> <p>5月4日 JICAウズベキスタン事務所開所式</p> <p>6月1日 組織・業務改革に向けた本部準備体制がスタート</p> <p>7月24日 専門家招集のエアフィジー国内線航空機墜落事故</p> <p>7月30日 JICA設立25周年記念式典開催</p> <p>8月 開発パートナー事業始動（疎麻説明会を東京、大阪で開催）</p> <p>8月17日 トルコ北西部での大地震被災者救援に国際緊急援助隊救助チーム、医療チーム、専門家チームを派遣。初の人命救助に成功</p> <p>8月19日 マケドニアに専門家チーム派遣。難民キャンプ周辺の環境調査や再開発計画づくりに取り組む</p> <p>8月22日～29日 コソヴォ自治州に復興・難民帰還支援調査団派遣</p> <p>8月23日 キルギス南部でJICA派遣の調査団4名を含む7人が、隣国タジキスタンから侵入したイスラム武装勢力により拉致される</p> <p>8月30日 ODA民間モニター第1陣、フィリピン、ラオスへ出発</p> <p>9月2日～3日 「インドネシアの経済再生と社会の安定のための国際セミナー」開催</p> <p>9月21日 台湾での大地震被災者救援に国際緊急援助隊救助チーム、医療チーム、専門家チーム派遣</p> <p>10月25日 キルギス調査団員拉致事件63日ぶりに解決</p> <p>11月9日 高橋昭彦参事が国連東チモール暫定統治機構（UNTAET）の副代表に就任</p> <p>11月12日 トルコ北西部で再び大地震発生。国際緊急援助隊救助チーム、医療チームを派遣</p>
<p>2000年</p> <p>2月2日～3日 世界銀行主催第9回インドネシア支援国会合（CGI）開催</p>	<p>2000年</p> <p>1月29日 公務員倫理規程発表</p> <p>3月14日 援助評価検討部会・評価研究作業委員会（外務省経済協力局長諮問機関）、ODAの評価体制の改善に関する報告書をまとめる</p>	<p>2000年</p> <p>1月1日 JICA新体制発足</p> <p>2月19日 東チモールへの「緊急復興開発調査団」第1陣、現地入り</p> <p>3月10日 東チモールにJICAディリ事務所開設</p> <p>モザンビーク洪水災害救援に国際緊急援助隊医療チーム派遣</p>